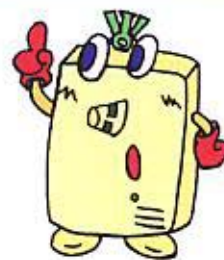




## 火災警報器にはどんな種類がありますか？

『電池を使うタイプ』と  
『家庭用電源を使うタイプ』があります。



### 電池を使うタイプ

#### 電池の交換

電池切れ警報（音またはランプ）が出たら、電池を交換します。



交換期限がきたら…

#### 機器の交換

交換期限（10年が目安です。）がきたら、機器ごと交換します。

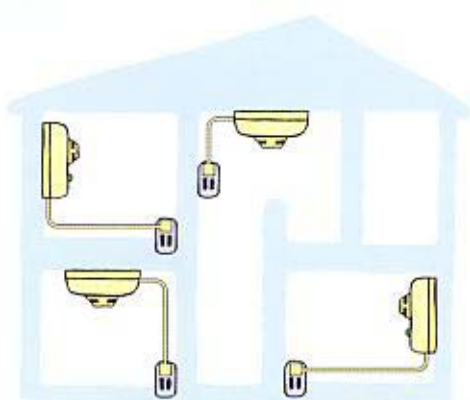


※自動試験機能付のものもあります。

### 家庭用電源（100V）を使うタイプ

#### コンセントへ差し込むもの

コンセントがあれば、比較的簡単に設置できます。



交換期限がきたら…

火災警報器にも寿命があります。交換期限や火災警報器の処分方法などについては13Pをご覧ください。



# 火災警報器にはどんな種類がありますか？

『**単独型**』と『**連動型**』があります。

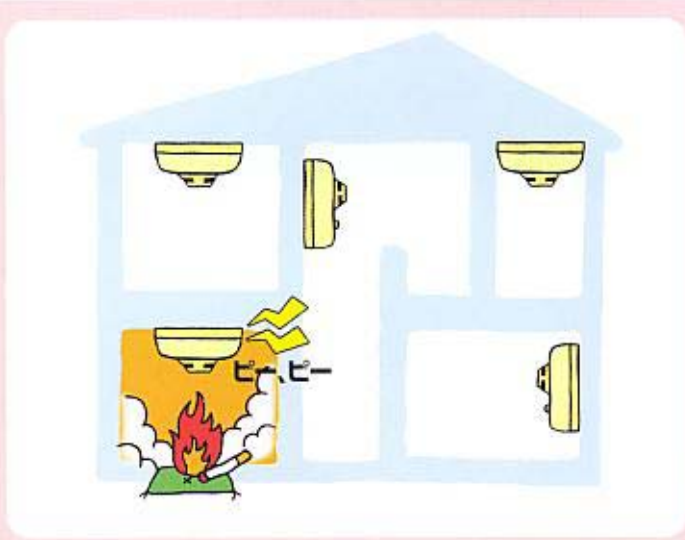


## 単 独 型

検知した火災警報器だけ鳴動します

火災を検知した火災警報器だけが警報音を出します。

例えば、寝室の火災警報器が火災を検知すると、この火災警報器だけが警報音を鳴らします。

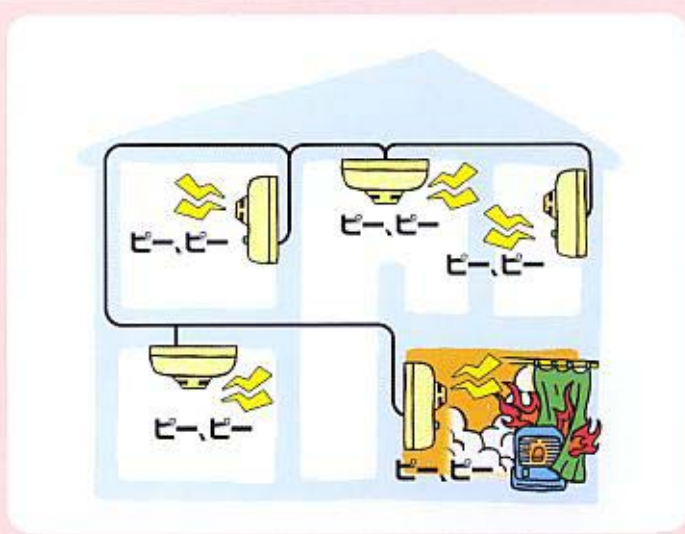


## 連 動 型

すべての火災警報器が鳴動します

火災を検知した火災警報器だけでなく、接続されているすべての火災警報器が警報音を発します。

例えば、居室の火災警報器が火災を検知すると、寝室や階段のすべての火災警報器が警報音を鳴らします。



この他にも下記のような装置があります。

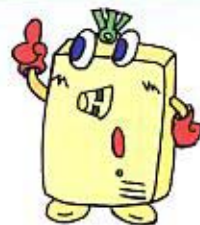
## 補助警報装置

高齢者の方、目や耳の不自由な方には、音や光の出る補助警報装置の増設をお勧めします。





感知器と受信機を組み合わせるタイプもあります。

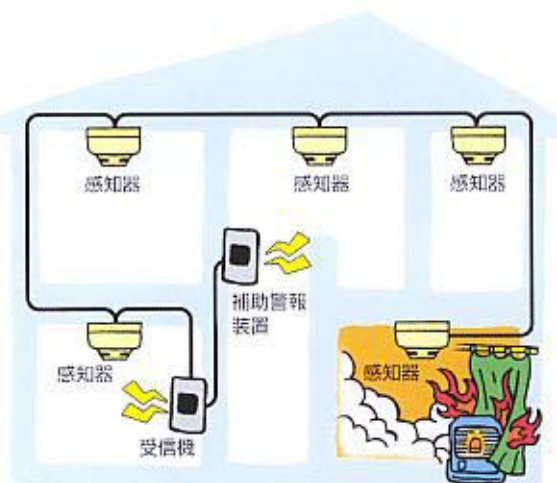


### 住宅用自動火災報知設備

火災発生を知らせる設備としては、住宅用火災警報器の他に住宅用自動火災報知設備があります。

火災を検出した感知器からの信号を受けて、受信機が火災発生を知らせるシステムです（感知器自体は警報を発しません）。

例えば居室の感知器が火災を検知すると、リビングなどに設置した受信機及び感知器がある階に設置した補助警報装置が警報音を鳴らします。さらに補助警報装置を接続すれば、その部屋にも警報を発することができます。設置については専門家にご相談ください。



この他にも、警報を音声で知らせるタイプ、火災とガス漏れを両方検知できる複合タイプ、受信機と感知器の配線が不要な無線タイプなどがあります。

代表的な住宅用火災警報器を紹介します。



	取付け：天井埋め込み 電 源：AC100V 警報音：ブザー S		取付け：天井 露出 電 源：電池 警報音：ブザー S		取付け：壁 露出 電 源：AC100V 警報音：音声+ブザー H +ガス+CO
	取付け：壁 露出 電 源：電池 警報音：音声+ブザー S		取付け：天井 露出 電 源：電池 警報音：ブザー S		取付け：壁 露出 電 源：AC100V 警報音：音声+ブザー H +ガス+CO
	取付け：天井 露出 電 源：AC100V 警報音：ブザー S		取付け：天井 露出 電 源：電池 警報音：ブザー H		取付け：壁 露出 電 源：電池 警報音：音声+ブザー H +CO

凡例：S → 煙式、H → 熱式、ガス → ガス漏れ警報、CO → 不完全燃焼警報